

2019 年度事業計画書

1. 事業計画策定にあたって～募金、奨学金想定

(1) トドックふくし基金サポーターの 2019 年～2021 年の募金想定

- ①2018 年 11 月のサポーター募集チラシでは、新規登録 113 人、1 人平均募金額 195 円とこれまでと比べ新規人数、募金額の伸びが極端に鈍化しました。これを受け、2019 年度は厳しい想定をしています。
- ②2019 年度サポーター募金は 2019 年 2 月 18 日～22 日、9 月 16 日～20 日の 2 回、募集チラシを折込み、月平均登録 10,410 人、一人募金額平均 198 円を想定し 2,470 万円を当期指定正味財産受入額に計上します。
- ③2018 年度指定正味財産期末残高（山口奨学金資産 464 万円含む）は 876 万円の想定です。

■サポーター募集チラシ折込による登録人数、募金額実績

サポーター募金	2017 年 3 月	2017 年 9 月	2018 年 3 月	2018 年 11 月
新規登録増加人数	512 人	360 人	349 人	113 人
1 人平均募金額	162→175 円	176→184 円	185→192 円	192→195 円

■サポーター登録人数・募金額の推移と 2019 年度以降の想定

サポーター募金	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
月平均登録数	10,404 人	10,428 人	10,410 人	10,600 人	10,800 人
1 人平均募金額	160→180 円	193 円	198 円	201 円	204 円
指定正味財産受入額	2,235 万円	2,420 万円	2,470 万円	2,560 万円	2,640 万円
サポーター募金期末残	292 万円	392 万円	197 万円	167 万円	219 万円
山口奨学金資産期末残高	500 万円	464 万円	392 万円	284 万円	176 万円

(2) 2019 年度育英奨学生募集計画と 2019 年～2021 年の想定

奨学生の採用を増やすと在学中の 3 年間に奨学金給付額が増え、収支に影響します。

- ①サポーター募金は上記見通しで、2019 年度から 2021 年度の採用は 68 名（内、山口奨学金資産は毎年 3 名）を計画します。
- ②奨学金原資は、サポーター募金と山口奨学資産から毎年指定寄付金に振替えて充当します。

■ 2019 年度奨学生採用（案）と 2021 年度までの奨学生想定

注：（ ）内は特別支援学校高等部生

奨学生	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
1 年生採用	61 (22)	67 (21)	68 (24)	68 (24)	68 (24)
2 年生	62 (21)	61 (22)	67 (21)	68 (24)	68 (24)
3 年生	43 (17)	59 (19)	61 (22)	67 (21)	68 (24)
奨学生合計	165 (60)	187 (63)	196 (67)	203 (69)	204 (72)
奨学金計	1,980 万円	2,250 万円	2,352 万円	2,436 万円	2,448 万円
増減	233 万円	270 万円	102 万円	84 万円	12 万円

山口奨学金資産～2018 年～21 年は 3 名採用。奨学生は 18 年 3 人、19 年 6 人、20～21 年 9 人

2. 2019 年度事業計画

(1) 障がい者及びひとり親家庭への奨学金支給事業（定款第4条（1））

1) 2019 年度コープ育英奨学生採用計画

- ①昨年同数の 68 名（山口奨学金資産 3 名含む）を採用します。
- ②内訳は、ひとり親家庭の高校生(公募)は 44 名（昨年 46 名）です。
- ③特別支援学校高等部生（学校推薦）に 2019 年度新設の函館高等支援学校を追加します。また、2016 年 2 月の第 3 回理事会で確認した基準（職業学科設置で 3 学級以上、定員 24 名以上）で対象となる釧路鶴野支援学校（6 学級 48 名）も加えます。これにより特別支援学校生は 24 名（昨年 22 名）となります。
- ④不登校生枠の募集表現は若干名とし、応募状況を勘案し育英奨学生選考委員会で一般採用と併せ答申し、2019 年度第 1 回理事会で決定します。

2) 不登校生枠の補欠運用について

これまで不登校生枠の補欠（繰り上げ採用）は、採用年度内（翌 3 月末まで）に辞退者が発生した場合としてきましたが、今後、当年 9 月末までに辞退者が発生した場合とします。

「不登校生」とは中学校で不登校の認定または 3 学年時に 30 日以上欠席があり教科の評定が低くならざるを得なかった生徒です。財団では不登校生の高校への進学を応援するため 2014 年度から不登校生枠を設け、あわせて奨学金原資の有効活用の観点から補欠を定め、1 年以内に辞退（退学等）があった場合繰り上げ採用することとしていました。2014 年以来不登校生枠として 11 名採用してきました。2018 年 10 月に辞退者があり、初めて補欠 1 名を繰り上げ採用する事態となりましたが、採否通知から時間が経過した場合は当初応募者の環境・条件を改めて確認するなど難しい側面もあり、今回の運用変更を提案します。

3) 奨学金支給予算

奨学金は月額 1 万円とします（規則第 8 条：支給金額月額 5 千円～1 万円）。

支給金額は 196 名に 2,352 万円で前年に対し 102 万円増になります。

■2019 年度奨学生（想定）。

山口奨学金資産での 2019 年は 3 名採用、2 年生は 3 名です。（ ）内は不登校枠の生徒

学年	ひとり親家庭	高等支援学校	2019 年度計	2018 年度末	前年差
1 年生	44 (未)	24	68	68→67	+1
2 年生	46 (3)	21	67	61	+6
3 年生	39 (2)	22	61	60→59	+2
合計	129 (5+未)	67	196	189→187	+9

注：2018 年度までの高等支援学校は 22 校（養護学校：山の手養護学校、高等養護学校：岩見沢・雨竜・美深・伊達・札幌市立豊明・新篠津・中札内・白樺・札幌・紋別・中標津・今金・小平、高等支援学校：小樽・札幌稲穂・千歳・札幌あいの里・札幌みなみの杜・旭川、札幌視覚支援学校・北海道高等聾学校）2019 年度は函館高等支援学校（19 年度新設）、釧路鶴野支援学校を加え 24 校。

3) 奨学生、保護者等とのコミュニケーション

「育英奨学生通信」を年 4 回振込月（5・8・11・2 月）に発行します。

2 月に卒業生に記念品を贈呈し、「卒業生感想文特集」を 5 月に発行します。

(2) 社会福祉施設及び福祉ボランティア活動等への助成事業（定款第4条(2)）及び 地域住民相互の助け合い活動への助成事業（定款第4条(3)）

- ①地域福祉助成は600万円（前年同）とします。（当面、財団の収入増分は奨学金を優先し、地域福祉助成は据置きます）
- ②「団体助成」の募集は、45団体450万円（1件の上限10万円）です。
- ③「活動助成」の募集は、5団体150万円（1件上限30万円）です。
- ④ 定款上の区分の福祉助成金は360万円、助け合い助成金は240万円を想定します。

年度	団体助成		活動助成		合計	
	件数	金額（万円）	件数	金額（万円）	件数	金額（万円）
2019年	45	450	5	150	50	600
2018年	46	438	6	160	52	598

- ⑤2019年度の予定は、募集4/27～6/11、審査委員の事前審査6/22～7/2、7月20日助成審査委員会を開催し答申書を作成します。尚、福祉助成審査委員会は応募状況と審査により、前記の各助成額を総額予算内で変更した答申を行う場合があります。7月20日午後開催の第3回理事会で贈呈先を議決する予定です。
- ⑥2019年度地域福祉助成募集要項は、4月20日開催の2019年度第1回理事会で議決します。
- ⑦8月8日（木）京王プラザホテルで2019年度福祉活動助成贈呈式・活動交流会を開催し、グループ別交流の時間不足、他グループの報告も聞きたいとの要望に沿うよう改善します。

(3) 社会福祉に関する調査・研究及び啓発事業（定款第4条(4)）

①創立30周年福祉講演会開催

1989年5月31日に「財団法人市民生協社会福祉基金」道知事に認可され2019年で30周年を迎えます。記念行事として85万円の予算で「記念講演会」を開催します。

- ②「ふくし基金だより」、「サポーター通信」を年2回（6・11月）発行します。
- ③近年の調査でスマホアクセスが70%との報告があり、財団のホームページもスマホで見やすくできるよう改善します。
- ③「北海道奨学金ネットワーク」の幹事団体・事務局として参加し、奨学金問題の情報や活動の交流を行い情報発信します。

(4) 東日本大震災被災者支援事業は、本年は行いません。

3. 2019年度事業予算

(1) 経常収益（収入）

経常収益予算は3,822万円を計上します。内訳は下記の通りです。

- ①基本財産運用益480万円、会費は法人392万円・個人40万円で合計432万円、寄付は、法人は昨年レベル200万円、個人は10万円を計上します。
- ②指定寄付金は指定正味財産から2,700万円を振替えて2019年度奨学金給付2,352万円と福祉助

成金 360 万円に充当します。なお、山口奨学金資産からの振替は 72 万円（奨学生 6 名分）です。

(2) 経常費用（支出）

経常費用予算は 3,793 万円を計上します。内訳は下記の通りです。

- ①事業費用は、奨学金給付が 196 名分 2,352 万円、地域福祉助成が福祉助成金 360 万円と助け合い助成金 240 万円の計 600 万円、贈呈式・交流会費 20 万円を計上します。広報啓発費用は 370 万円で、内訳はふくし基金だより 2 回発行 16 万円、サポーター通信 2 回発行 43 万円、講演会費用 85 万円、サポーター募集チラシ 2 回作成・折込費 184 万円等を計上します。公益事業に関わる事務局員費 2 名分とコープさっぽろのシステム・事務委託費として 170 万円を計上します。
- ②管理費用は、302 万円で会議費は 4 万円、報酬 38 万円、旅費交通費 26 万円、通信運搬費 65 万円、消耗品費 40 万円を計上します。法人会計に関わる事務局員費 2 名分とコープさっぽろのシステム・事務委託費として 102 万円を予算化します。なお事務局 2 名の委託費は従事割合を勘案して公益会計 74%と法人会計 26%に配分しています。

(3) 当期経常増減額（収支）

29 万円の黒字、公益目的事業会計は 69 万円の赤字、法人会計は 98 万円の黒字の予算とします。

(4) 指定正味財産増減の部

- ①期首残高は 2018 年度指定正味財産期末残高（想定）857 万円を計上、うちサポーター募金分 393 万円、山口奨学金資産 464 万円です。
- ②サポーター募金の当期指定正味財産受入額は、募集チラシを 2 月、9 月 2 回宅配折込みでサポーター募金増を想定し 2,473 万円を計上します。
- ③一般正味財産への振替は 2,700 万円で、内訳はサポーター募金から 2,628 万円と山口奨学金資産から 72 万円です。
- ④当期の指定正味財産期末残高は 630 万円で、内訳はサポーター募金分 238 万円と山口奨学金資産 392 万円です。

4. 2019 年度基本日程の件

- (1) 理事会は全役員任期満了により理事長互選の臨時理事会 1 回を含め 5 回開催します。

理事会	日時	場所
第 1 回理事会	2019 年 4 月 20 日（土）午後 1 時 30 分	コープさっぽろ北 12 条店
第 2 回理事会（臨時）	2019 年 5 月 25 日（土）午後 2 時 30 分	中央センター3 階会議室
第 3 回理事会	2019 年 7 月 20 日（土）午後 1 時 30 分	コープさっぽろ北 12 条店 2 階会議室
第 4 回理事会	2019 年 10 月 19 日（土）午後 1 時 30 分	
第 5 回理事会	2020 年 2 月 22 日（土）午後 1 時 30 分	
2020 年度第 1 回理事会	2020 年 4 月 25 日（土）午後 1 時 30 分	

- (2) 評議員会は年 2 回開催します。

評議員会	日時	場所
定時評議員会	2019 年 5 月 25 日（土）午後 1 時 30 分	中央センター3 階会議室
臨時評議員会	2019 年 10 月 26 日（土）午後 1 時 30 分	コープさっぽろ北 12 条店

- (3) 育英奨学生選考委員会の開催日

2019 年 4 月 20 日（土）午前 10 時～、コープさっぽろ北 12 条店 2 階会議室

- (4) 地域福祉活動助成審査委員会の開催日

2019 年 7 月 20 日（土）午前 10 時～、コープさっぽろ北 12 条店 2 階会議室